

計画の具体的な進め方に対する御意見一覧

意見

- 災害対策においてハード・ソフト両面の推進が必要である
 - 【ソフト面】
防災士の資格取得者増員に対する様々な支援が必要であるが、オンライン活用等の受講環境や受講料支援が現状どうなっているか。また、どのような支援があるか。
更に、個別避難計画の策定進捗状況について、今後策定率を上げる必要が早期にあると考えています。
 - 【ハード面】
進めていただいているところですが、快適な避難所環境の整備、冷暖房設備の現状と今後の計画予定についてはどうか。
- 自殺死亡率、認知症の社会理解(サポーター)、共に安心して暮らせる社会の実現へ向けて更に取組が必要である。
- 健康増進延伸のため、運動習慣はもちろんのこと、住民がボランティアの食生活改善推進協議会(ヘルスメイト)に参加し、住民自らが健康作りを推進できる環境づくりが大切だと思います。
- 海の環境保全活動、とりわけ「磯焼け」を改善する活動を促進しなければならない。
- ※ 命の道、海部道路・阿南安芸自動車道の早期整備促進のため、地域医療を守る会、海部郡婦人会連合会による署名活動を行いますので、その折には御尽力よろしく申し上げます。
- 地域資源の磨き上げによる魅力向上
南部圏域の観光に携わる行政・団体・民間事業者に『みなみ阿波観光局』での取り組みが、いかに重要であるかを認知してもらう。
また、広域での取組について、みなみ阿波圏域→徳島県→四国4県での誘客へと拡大。広域で取り組む程効果がある。
特にインバウンドの視点では四国は北海道と同等の一つの島としての観光圏であることを理解する。
- 観光客受け入れ体制の充実
人口減少社会での日本人観光旅行者とインバウンド(個人・グループ)旅行者への対応に関して、従来の関西広域連合内でのPRに加えて、人口集積地である関東圏への積極的なPRを行う。徳島は四国観光の東玄関。
その為には、
 - ・成田国際空港と徳島空港を結ぶLCC便を早期に開設する。
 - ・旅行者だけでなくビジネス客の利用を狙って、現在、徳島空港とJR徳島駅までを運行しているリムジンバスについてJR阿南駅まで延伸する。
 - ・現在、県南と伊丹空港を結ぶバスルートはあるが、新規に関西国際空港と県南を結ぶルートを開設する。
- 徳島県の地方創生の要となる『バッテリーバレー構想』の1丁目1番地となる内陸型工業団地の適地は日亜化学工業株式会社、丸井産業株式会社、レーザーシステム株式会社等の関連企業が隣接している阿南IC周辺と考えられ、近い将来開通する徳島南部自動車道、阿南安芸高規格道路を利用し南は海陽町、高知県東部から、また北は淡路島南端の住民も阿南市への通勤が可能となり労働力の確保も期待できる。

- 近い将来の南部圏域
徳島南部自動車道また阿南安芸高規格道路の整備を見据えて1市4町のストロングポイントを伸ばせる人の流れを創出する。
個人的には小松島市の赤石トンネルより以南を南部圏域と考えています。
徳島小松島港の赤石港湾ターミナル(クルーズ船受入れと既存の王子製紙また日亜化学工業の原材料、製品の搬入・搬出港)、和田島の海産品、楯淵・坂野地域の農業団地、JA東徳島の産直市等も含め南部圏域の魅力を最大限発揮できる、観光誘客と新しい人の流れを創出しようではありませんか。
- 一次避難場所の安全確保について、美波町戎地区には高台やビル等がなく、地震発生時には「えびす津波避難タワー」に避難することになるが、タワーの風雨対策が十分でなく避難者の体調悪化につながる恐れがあることから、避難スペースのカーテンを引き戸式の雨戸にやり替えるなど、公助による対策をお願いしたい。
- 河川における土砂の堆積、河床の上昇、水量の減少について、根本原因をしっかりと見極め、解決に向けて取り組んで欲しい。
なお、原因はどういったものが考えられるか？
- 戦略6(1)の上から5つめの■について追加していただき、ありがとうございます。市町や地域住民が出来ることがそれぞれあるので、お互いに協力できればいいと思う。
- 小面積の山林や土地の登記が進まないことについてのお考えについてお聞かせください。
- 地域の状況により毎回計画の見直しを行うことは必要で、とても良いこと。
- それぞれの委員の声も取り入れて頂き、発言して良かった。それだけでなく、各指標の達成度合や考慮すべき客観的なデータがあればより良い見直しになる。
- 計画で定めている目標など、委員やこの会議の中で出来る部分は反映してもいいかも。例えばDXというワードがたくさん出てくるが、紙の出席票や意見書をなくしたり、小さなことでも実施することで意識付けできると思うので、検討を。